

みと
柿沢未途の日本再生 / 「憲政の神様」尾崎行雄記念財団

ブックオブザイヤーを
受賞!

衆議院議員

みと
柿沢未途



書店、Amazon で発売中 (1,980 円税込)

柿沢未途プロフィール

- 昭和 46 年 (1971 年) 1 月 21 日生まれ
江東区立数矢小、麻布中・高、東京大学法学部 卒業
- NHK記者として長野冬季オリンピック・パラリンピックを取材
- 都議 2 期、衆院 4 期連続当選
- 初当選以来、所属政党の政調会長や幹事長を歴任
- 文藝春秋「日本を元気にする125人」に選ばれる
- 国会質問ナンバーワン議員として知られ、2020 年 12 月までの
国会質問回数は335 回
- NPO法人による国会質問評価で★★★3ツ星議員を 4 回受賞
- 政治団体「新エネルギー運動」代表として、RE:100 (自然エネ
ルギー 100%) の日本をつくるために政策提言中
- 防災士の国会議員としても知られ、3.11 の震災をはじめ被災地に
数多く足を運んでいる
- 禅寺修行で自らを見つめ直し、「本来無一物」を座右の銘とする

310PRESS

WebSite 310kakizawa.jp Twitter @310kakizawa

発行：衆議院議員 柿沢未途

〒135-0047 江東区富岡 1-26-21-3F

TEL 03-5620-3104 FAX 03-5620-3105

2021 年 1 月発行



尾崎行雄 (号堂)
写真：尾崎行雄記念財団

新しい年の幕開けを迎えました。順調であれば延期されたオリンピック・パラリンピックが開催される年にもなります。新型コロナウイルスのワクチン接種開始のニュースがアメリカやイギリスから報じられ、暗く閉塞感に満ち満ちた感染症のパンデミックもいよいよついに収束に向かうのを期待せずにはられません。明けない夜はない、冬が来ればやがていつか必ず春が来るのです。

そんな時に、私にもビッグニュースが届きました。昨年9月に出版した私の著書「柿沢未途の日本再生」が、尾崎行雄記念財団の「号堂ブックオブザイヤー2020」大賞に選ばれたのです。尾崎行雄の生誕

の日である12月25日に発表されました。もともとは国会議員10年を期に自らの政策を書き下ろして、ほぼ自費出版のような形で出版した本です。このため版元も大手出版社ではありません。ベストセラーになったり賞を取ったりするのを期待して出した本ではありません。

それが一時はアマゾンのランキングで4位(政治家部門)になり、権威ある財団の賞を受賞するようなご評価を頂いたのは、まさに「想定外」の出来事となりました。広告宣伝したわけでもない、書店で平積みになるわけでもない、入手もしにくい本をお読み頂いた皆さんに心から御礼を申し上げます。(中面に続く→)



尾崎行雄（号堂）とは

とりわけ感激なのは、すべての国会議員の鑑であり、「憲政の神様」と呼ばれる尾崎行雄の名を冠した賞を受賞した事です。

号堂（がくどう）の号でも知られる尾崎行雄は、明治23年に帝国議会在開設され、史上初めて施行された第1回衆議院総選挙以来、敗戦後の新憲法下での昭和27年の衆議院総選挙まで連続25回当選、実に63年間、94歳まで衆議院議員を務めました。

尾崎行雄が「憲政の神様」と称えられるのは、世界最長とも言われる国会議員の在職期間の長さゆえではありません。議会政治の確立のために終始一貫して働き

続けた政治家であったからです。藩閥や軍部の専横に反対し、長州閥・陸軍大将の桂太郎総理に対する尾崎行雄の衆議院本会議での弾劾演説は議会史上の名演説として知られ、憲政擁護運動の高まりで内閣が倒れるに至っています。いわゆる大正デモクラシーを巻き起こした立役者の1人が尾崎行雄であったと言っていいでしょう。

そして満州事変の直後にはアメリカで国際協調を訴える演説を行ない、戦争への道をひた走る軍部に立ち向かいました。政党内閣が崩壊し、軍国主義の翼賛政治体制となった後も、大政翼賛会に反対する非推薦候補として衆議院総選挙を戦い、全体主義の空気の中、選挙妨害にあいな

がらも当選しています。演説会場には暗殺を企てる刺客が入り込み、危うく難を逃れたといえます。

この間、憲政擁護運動の盟友であった立憲政友会の犬養毅（木堂）は総理在任中に公邸で五・一五事件に遭い、青年将校の凶弾に倒れています。立憲民政党の濱口雄幸総理も右翼結社の社員に撃たれ亡くなっています。昭和初期の世相の中で政党政治家として軍部と向き合うのは生命を賭けた仕事だったのです。

また、尾崎行雄は衆議院議員であっただけでなく、明治36年から45年には東京市長に就任、上下水道の整備、道路改良、街路樹植栽、港湾整備、市街鉄道等、帝都の民生向上に大いに力を振りました。今や日米友好の象徴となっているワシントンDCのポトマック川の桜並木を植樹したのも尾崎行雄です。

理想を追い求め、信念を貫いた政治家であった尾崎行雄の理念を基礎に、民主政治と市民社会の発展、世界平和の実現を掲げて昭和31年に設立されたのが尾崎行雄記念財団です。国会議事堂正面の前庭に建てられた「尾崎記念会館」は衆議院に寄贈され、議会政治の歴史をとどめる「憲政記念館」となり、国会見学の定番ルートとなっています。

尾崎行雄記念財団の歴代会長は衆議院議長が務められており、後世における憲政の担い手である私達のためにある財団とも言えます。また、財団副会長を務められた故・相馬雪香さん（尾崎行雄の三女）



国会議事堂に飾られる尾崎行雄の胸像

雄弁で知られ、 大衆に愛された信念の政治家

写真：尾崎行雄記念財団



は、世界で平和活動を行なう NGO の草分けである「難民を助ける会」の設立者です。

「柿沢未途の日本再生」

今回、名誉ある尾崎行雄記念財団「罎堂ブックオブザイヤー」に選ばれた私の著書「柿沢未途の日本再生」は、まさに新型コロナウイルス感染症で社会が止まっているかのような状況の中で出版されました。もともとはその前から書いていた内容ではありましたが、コロナで直面した課題への答えのような政策が預言のようにちりばめられています。

序章の「スイスを手本とすべし」、中央集権から地方分権、大規模一極集中から小規模分散のネットワーク型社会へ、自然エネルギーへのシフトと地産地消、「持てる者」と「持たざる者」の貧困と格差の問題を解決するベーシックインカム、デジタル通貨をはじめ社会インフラのデジタル化、教育と子育て、中国が台頭する中でいかに平和と存立を守っていくのか、といった幅広いテーマを書いています。

今回の受賞を機会にぜひ皆さんにもお手にとってお読み頂ければ幸いです。

人生の本舞台

憲政史上に残る名演説の数々を残した尾崎行雄の名言に「人生の本舞台は常に将来に在り」という言葉があります。憲政記

念館の正面玄関には尾崎行雄本人の筆によるその言葉が刻まれた記念碑が建てられています。亡くなられた94歳の年に書いた字だそうです。94歳になってもまだこれからが人生の本舞台だ。お前らも頑張らにやいかんぞ。後世の政治家である私達に語りかけてくださっているようです。

思えば私もだいぶ起伏に富んだ道りを歩んできました。気がつけば記者を辞めて政治の世界に足を踏み入れてもう20年になります。【1/2の会】というグループを立ち上げ、無所属で始まった都議のキャリア、恥じ入るほかない事故により地の底に落ち、都議を辞職して禅寺修行を経験しました。そこで自分の人生が変わりました。父を食道がんで亡くし、剃髪の坊主頭での看病生活を経て、考えられない運氣のめぐりで国会議員になりました。

以後も紆余曲折、波瀾万丈、毀誉褒貶の連続でしたが、理想と政策を持ち、曲がりなりにも国会議員を連続4期、11年

人生の本舞台は常に将来に在り
九四翁

尾崎行雄記念財団

を務めてまいりました。ご支援くださる皆さまのおかげさまであり、御礼の申し上げようもございません。そして今、ここからが「人生の本舞台」だと感じています。

私の本舞台

先行きの不透明感が極度に高まった時代です。富裕な者とそうでない者の格差が極大化しつつあり、置き去りにされつつある人々が未来に希望を持たず、静かな絶望が社会に広がっているのを感じます。新型コロナウイルスの社会不安の中で、中・高校生や女性の自殺者数が愕然とするほど増えています。もともと先進国の中で自殺者が最も多い国であった日本で、それをも大きく上回る前年比の増加となっています。「感染防止と経済の両立」だろうが何だろうが、こんな風に生きる希望を失わせている日本の政治は失敗です。与党だろうと野党だろうと政治家全員が己の不甲斐なさに忸怩たる思いを持たなければなりません。幕末・安政年間に生まれた尾崎行雄。徳川三百年の世が終焉するのですから、先行き不透明なんてものではありません。しかし明治に自由民権と出会い、大正デモクラシー、昭和の戦争を生き、政治にその志を貫きました。

昭和、平成、令和と、「失われた〇〇年」と形容されがちな時代を生きてきた私も、「人生の本舞台は常に将来に在り」の精神で、希望と安心を皆さんに届けられる政治家でありたいと願っています。

アートパラ深川おしゃべりな芸術祭

ARTPARA
FUKAGAWA

障がいのある方々のアート作品に 7万5000人が感動!



街なかアートの展示 (富岡八幡宮)
(深川不動尊回廊タスホール)

360°写真でバーチャルで見られます!

【アートパラ深川おしゃべりな芸術祭】オンライン展示

<https://www.artpara-fukagawa.tokyo/>



11月15日から23日までの9日間、【アートパラ深川おしゃべりな芸術祭】が門前仲町・清澄白河・森下の駅周辺の街全体で開催されました。江戸からの神社仏閣や下町情緒あふれる深川の街なかに障がいのある方々の印象的・個性的なアート作品計500点を展示し、街歩きしながら鑑賞して頂く、街全体が美術館となる芸術祭です。私も発案者の1人として当初から関わってきました。

もともと NHK長野局記者だった20年以上前、長野冬季パラリンピックの取材で障がいのある方のアートに出会い、驚きと感動を覚えたのが始まりです。地元在住のグラ

フィックデザイナー・福島治さん(東京工芸大学教授)との出会いで実現できました。行政主体ではなく、地元住民の方々が実行委員会のメンバーとなり、みんなが障がいのある方々のアートを実際に見てファンになり、夢中で準備を進めました。

コシノジュンコ先生がスペシャルアドバイザーとしてオープニングセレモニーにご臨席され、スタッフTシャツもデザイン監修してくださいました。700人以上の方々がボランティアとして参加してくださいました。

アート作品の全国コンペは林真理子さん、別所哲也さんらに審査員を務めて頂き、授賞式では林真理子さん自身がとても感動さ

れたご様子でスピーチ、田村憲久厚労大臣もプレゼンターでお見えになりました。これのできた下町・江東区のチカラを誇りに思います。いよいよ延期されてのパラリンピックイヤー、世界に誇れる、街のレガシー・文化にしたいものです。

も、今まで見る機会のなかった障がいのある方のアートを通りすぎりに足を止めてじっと見入っていました。NHKや各メディアで大きく取り上げられ、それで来訪された方も多く、「アートもですが深川の街もいいですね」と口々に話していました。

9日間で街なかでアート作品を見た方は7万5000人。障がい者アートの展覧会イベントとして世界にも例を見ない史上空前のスケールになりました。

区内で生活する障がいのある方々の絵馬でつくった「みんなのアート絵馬神輿」も富岡八幡宮の境内に飾られ、思い思いに絵馬に色や絵を描いて寄せた方々が、うれしそうに、かわるがわる見に来てくださいました。これをできた下町・江東区のチカラを誇りに思います。いよいよ延期されてのパラリンピックイヤー、世界に誇れる、街のレガシー・文化にしたいものです。



街なかアートの展示 (隅田川テラス)

授賞式にて、
審査員の林真理子さんと



オープニングセレモニーには
コシノジュンコ先生が